

令和3・4年度 大島地区研究協力校「へき地・複式教育」
伊仙町立糸木名小学校 公開研究会

令和4年10月5日(水)

研究主題

児童が主体的に考え、よりよい学びをともに創る複式学習
～算数科における指導過程の工夫を手立てとして～

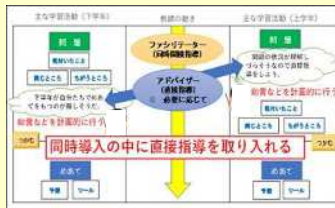
I 目指す児童像

- 必要感をもって、主体的に学習に取り組むことができ、自分の学びを実現することができる児童
- 目的に応じて、学習形態や発表の場を協議・選択し、意見を交流し合うことで、自分の考えを広げたり深めたりすることができる児童

II 研究の視点

【視点1】 複式授業の基本的な進め方を身に付けさせるための手立て

- (1) 指導過程の工夫（同時導入など） (2) 板書、ガイド黒板、ガイド学習の手引きの工夫



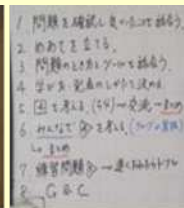
糸木名式同時導入イメージ



ガイドプレートを生かした板書



ガイド学習の手引き



ガイド黒板



書く内容の精選



ICTの活用

(3) 時間確保の手立て

【視点2】 自分でめあてをもち、自力で解決するための手立て

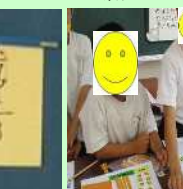
- (1) 学習の明確な見通しをもたせる導入 (2) まとめカードとヒントの活用



問題文に線を引く。



前時までと同じところと違うところを考える。



自分たちなりのめあてを相談し、考える。



まとめカード



具体物コーナー

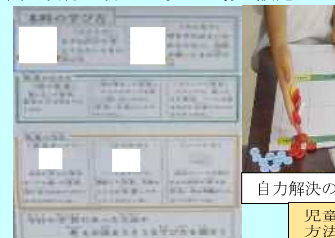
(3) 児童の実態に応じた関わり



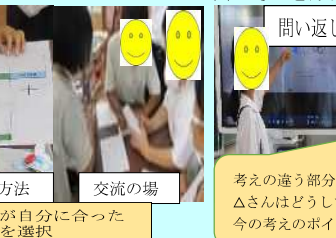
ガイドやフォローの育成を進めることで、児童同士で学習する力を高め、個別指導の時間を生み出す。

【視点3】 学習を「よりよい学び」に深化させるための手立て

- (1) 自分に合った学びの場の設定 (2) 考えを深化させる、考えの可視化と類型化の手立て (3) 自己の変容を認識する振り返り



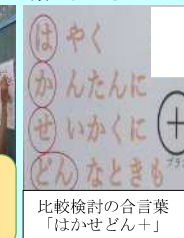
自力解決の方法



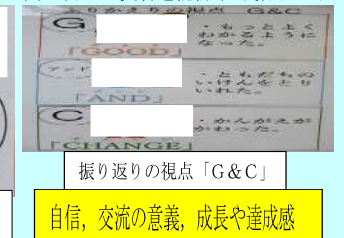
交流の場



考えの違う部分はどこかな。
△さんはどうして〇〇しているのかな。
今の考えのポイントはどこかな。



比較検討の合言葉
「はかせどん+」



振り返りの視点「G&C」

自信、交流の意義、成長や達成感

III 公開研究会の様子

研究授業



分科会



全体会



【公開研究会に参加された先生方の感想】

- 目指す児童像に迫る手立てがわかりやすく、主体的に考える児童が育ってきているように感じました。
- 糸木名式同時導入・同時間接指導・同時終末を通して、子どもたちの主体的な学びを育てようとする意図が素晴らしいと思いました。
- 複式で授業を進めるに当たった手立てや工夫がわかりやすく、参考になりました。
- めあての焦点化（前時との違いの明確化）、見通しのもとせ方、発問の在り方など自分の授業でも活用してみたいと思いました。
- 自分で解決方法を選ぶように、色々な教具やヒントカードを準備するなど、複式でなくとも参考になりました。
- 事前の準備が素晴らしく、子どもたちも一生懸命考え、自分の言葉で発表していました。
- 普段から子どもたちの発言を大切にされている様子が伝わる温かい授業でした。
- 分科会では各学校の実態や工夫されていることを聞くことができ、参考になりました。

一・二年算数科

三・四年算数科